



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラン

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC3月第 5例会 (2016.3.29) No.3128

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

富岡惣一郎

大正十一年（1922）～平成六年（1994）

上越市（旧高田市）南本町に生まれる。昭和十四年、新潟県立高田商業学校を

卒業、昭和三十五年から四十年まで、

三菱化成工業でアートディレクターを努める。昭和二十八年、新制作展に出品した作品が入選、昭和三十三年以降、東京の画廊にて「白と黒とブルーとグリーン」「雪国 白と黒」のテーマで個展を開催した。

雪国で育った惣一郎の拘り、それは、豪雪の街で育った生活環境を永遠のテーマとして生涯をかけた探究の基であり、ほとぼしる生命の源、このことが世界の自然現象をキャンパスの上で表現する魂の叫びとなった。

昭和三十六年（1961）、現代日本美術展、新制作展で相次いで受賞、二年後には、サンパウロ国際ビエンナーレ展に出品した「永遠の流れ」百号が、近代美術館賞を受賞した。活躍の舞台をニューヨークやワシントンに求め、昭和四十年、ニューヨークにアトリエを構え、以後七年間にわたって制作活動を続ける。この間、ニューヨーク・ジャパンソサイアティー・フェローシップを受けるなど、「白と黒」の富岡カラーも国際的に反響を呼ぶこととなった。

自著「富岡惣一郎」で次のように語っている。

「私が、単純に、全く無抵抗に白の世界を描きたいと思うようになったのは必然だったと思います。……絵を描き始めてからは、当然のように東洋の美学や禅芸術を、さらには当時大流行の外国の抽象絵画論も一生懸命勉強しました。……中国の水墨画、北画や南画、気韻正道の理論、日本の水墨画、書、禅アートなどから余白や省略、濃淡の黒の使い方を知り、雪国の白の世界で実際にこれを見てとろとしたのでした。」

そして、最も苦勞した材料が、雪国を描くのに欠かせない色、白の絵具であった。白の絵具は、時間の経過と共に、剥落、亀裂、黄変、白いひびのない美しい画面を制作するのに難渋。絵具メーカーも幾度となく試作を繰り返したが、満足のゆく結果は得られなくなり、開発を断念した。

昭和三十七年の正月、試作品の五百CC缶の蓋を開けた

際に、黄色のゼラチンの層、一センチ下から酸化硬化した絵具の層が五ミリ、その下に実験中には見られなかった白の絵具が現れた。早速キャンパスの上にパレットナイフで塗って経過を見た結果、トミオカホワイトが誕生した。富岡の独特の画法は、惣一郎ならではの、キャンパスの上にダンビラ＝特別に制作した大きなナイフ状の刀、で全面、黒を塗り、乾燥した段階で白の絵具を塗り、やや固まった直後に削って、下の黒をパレットナイフで引っ搔いて景観や樹木を浮かび上がらせる。この結果、多様で繊細な黒の表現が可能となり、黒以外でも青や、オレンジ、ピンクを使って、「信濃川」や「富士山」「アラスカ氷河」「中国桂林山水」が完成する。中でも、長岡の三尺玉や小千谷の四尺玉を表現するために、特殊ナイフで画面に塗ってある絵具を引っ搔いて光の直線を作り、百号の巨大キャンパスを回転させながら、四方八方に炸裂する光を作り出すことに成功した。夜の花火だけでなく、昼花火も開花させている。

引き算の画法とも言われる惣一郎の絵は、日本各地は勿論、アメリカ、カナダ、中国、インドに及んでいる。

昭和五十九年（1984）、「雪・信濃川」が東郷青児美術館大賞を受賞する。ふるさとの川や山、長岡、片貝の花火、北海道や熊野原生林、地上から出発した「トミオカホワイト」は、セスナやヘリコプターに乗って鳥の目、鳥瞰図を描いた。

晩年は、宇宙・星に挑戦し、平成二年、魚沼市（旧南魚沼郡六日町上薬師堂）に、平成「トミオカホワイト美術館」が開館、「雪国に生まれた作品は、雪国に還す」という本人の意向で、生まれ故郷の上越市ではなく、設置を望んだ地元の要請を受け入れ、八海山の麓に平屋建ての瀟洒な美術館が開設された。

筆者は、平成五年、トミオカホワイト美術館で行われた、富岡惣一郎、新潟出身で芥川賞作家の新井満、サティの曲を弾いてその名を一躍有名にしたピアニスト高橋アキの3人のトークショーを演出し、放送、ビデオで紹介した。

飾らず、物静かな惣一郎は、多くの作品を寄贈し「白と黒」の世界を雪深い八海山（1778 年）を仰ぎ見る地に展示している。

細川護熙総理大臣の時には、一時、総理官邸の絵が、全て富岡作品で飾られたほか、政府専用機の壁を、「トミオカホワイト」の「谷川新雪」「富士雪景」「美幌峠」「梢」で装

飾された。

平成六年五月、病に倒れ、七十二歳の生涯を終えた。

「トミオカホワイト美術館」は、現在、南魚沼市が運営している。

(3) 退会ご挨拶

損害保険ジャパン日本興亜(株)新潟支店長 武田博之君

(4) イタリア軒新潟ロータリークラブご担当

大倉さんより退職ご挨拶

(5) 委員会報告

・高橋 清文さんへ 米山奨学生 ファム アイン ホアン

さんのカウンセラー委嘱状伝達

(6) 各種ご寄付の発表

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

塚田 正幸君 小林 悟君

(7) ニコニコボックス紹介

・岡田茂久君 新潟 RC の運営のお手伝いをさせていただいております、大倉隆支配人がこの度、退職されることになりました。新潟 RC の皆様にも良くしていただきました事、誠に感謝をしております。36年間の長きにわたり、ホテルイタリア軒を全力で支えて頂きました事、ホテル業界の右も左もわからないこの私に、様々な場面でご指導頂きましたこと、心より感謝しニコニコ致します。大倉支配人、本当にありがとうございました。お疲れ様でございました。

・塚田正幸君 私の4人の子供の末っ子(三男)が大学を卒業して4月から社会人になります。2009~10年度 RC の派遣1年交換学生として他の3兄弟と同じくブラジルでの楽しい高校生活を経験しました。大学ではジャズの同好会に所属して卒業間際まで演奏活動してましたが、私と違い留年せずきちんと4年で卒業してくれました。三男が卒業して学費や生活費の負担が無くなる事にほっとしますが、あんな小さかった子供が社会人になると思うと感慨深いものがあります。ロータリークラブで交換学生という貴重な経験をさせてもらった事にも感謝してニコニコします。

・秋山 博一君 先日 AKB48 の高橋みなみさんが新潟に来られ、自分の運営するゆるキャラに入り NGT48 劇場にサプライズで登場するドッキリ番組を撮りました。関西ローカルで新潟では放送されない予定だったのですが、なんと4月3日(日)の深夜に NST さんで放送されることになりましたので、ニコニコします。

・仙石 正和君 最近の大学は、専門家から外部評価を受けることが法律で義務付けられています。事業創造大学院大学では、MBA のビジネススクールの専門家から昨年4月から一年かけて、大学の目標、教育内容、研究、就職状況などの審査を受けました。10月には、専門家による授業参観、学生へのインタビューなど厳しい実地審査を経て、先週お蔭様で「適合」の”認証“を頂戴いたしました。ありがと

うございました。

・八島 進君 昨日3月28日に LNG 船2000隻目の入港を無事受け入れたことを感謝してニコニコします。昭和58年9月にインドネシアから第1船を受け入れて以来、今年で33年となりますが、この間、お蔭さまで無事故、無災害で、世界19ヶ国から多種多様な LNG の受入を行って参りました。これも皆様のご支援・ご協力の賜物と御礼申し上げます。現在、当社の年間の LNG 受入量は約440万トンと、震災以降高止まりで推移しておりますが、今後とも電力・ガスの安定供給のため、日夜頑張っていきたいと思っておりますので、宜しく願い致します。併せて古町の灯を決して消さないよう努力いたします。

(8) 卓話「テレビでは聞けない天気の話」

NST 気象予報士 宮崎由衣子氏



(9) 3月29日例会の出席率 68.09 %

会員数99名(出席免除会員 9名)

出席者64名(出席免除会員5名を含む)

(2週間前メーク後 85.06 %)

4月12日の例会予定

観桜夜例会 18:00~ イタリア軒

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>